

## 抗 議 文

### 米海軍横須賀基地の原子力空母ロナルド・レーガン「定期修理」にともなう 放射性廃棄物の「搬出」強行に強く抗議し、ただちに中止すること要求する

米海軍第7艦隊司令官 ウィリアム・ソーヤ・R・マーズ中将 殿  
在日米海軍司令官 ブライアン・フォート少将 殿  
米海軍横須賀基地司令官 マイケル・リッチ・ジャレット大佐 殿

神奈川県労働組合総連合  
新日本婦人の会神奈川県本部  
神奈川県商工団体連合会  
神奈川県平和委員会  
安保廃棄神奈川県統一促進会議  
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会  
原水爆禁止神奈川県協議会

米海軍横須賀基地を母港としている原子力空母ロナルド・レーガンは、1月から違法な定期修理を行い、本日、貨物運搬船「モホーク」に放射性廃棄物の積み込み、搬出を行おうとしている。

私たちは、これまでの定期修理と放射性廃棄物の搬出は、放射能汚染事故の危険あること、外交合意文書エード・メモワールに違反することを指摘し中止を強く求めてきた。しかし、米海軍は、この声を無視して定期修理及び放射性廃棄物の搬出を強行してきた。そして、また本日、放射性廃棄物の2年分を搬出を強行しようとしている。私たちは、このことに心からの怒りをもって強く抗議する。

原子力空母の定期修理及び放射性廃棄物の搬出は、エード・メモワール(1964年8月28日・日米外交合意文書)の「…燃料交換及び動力装置の修理を日本国又はその領海内において行うことは考えられていない」「放射能にさらされた物質は、通常、外国の港にある場合は…搬出されることはない」、ファクトシート(2006年4月17日)の「燃料交換及び原子炉の修理は、外国で行われない」に違反するものである。

定期修理の対象には、燃料・炉心に直接つながっている原子炉の一次冷却系設備も含まれている「放射能管理を必要とする作業」も伴うものであることを、日本政府が国会で明らかにしている。これらは、作業員の被ばくや周辺環境への放射能漏れのおそれもある危険な作業である。このような危険な定期修理を実施したことはきわめて重大である。

米原子力艦船自体がこれまで何度も重大な事故をおこしている。原潜の「炉心溶融」一歩手前の大事故や、1次冷却水漏れで放射性物質が外部に拡散する危険がある事故もあった。原子力空母R・Rと同じクラスの空母ステニスが座礁して、冷却水取水口が目詰まりして原子炉が緊急停止した事故など、重大事故が繰り返されている。

2011年3月11日発生した東日本大震災とそれに伴う福島原発事故から10年が経ち、私たちは、改めて原子炉事故の恐ろしさと重大性について思いを強くしている。横須賀市民や神奈川県民は、2基の原子炉を積んでいる原子力空母R・Rが、巨大地震や津波のとき、原子炉の重大な事故を引き起こすのではないかと、福島原発事故を想起し不安を強めている。このような中の定期修理及び放射性廃棄物の搬出強行にいっそう不安を強めている。

放射能汚染事故の危険が伴う修理及び放射性廃棄物の搬出は、放射能能害の危険があり、エード・メモワールの合意に反するものである。私たちは、放射性廃棄物の搬出を直ちに中止することを強く要求する。

横須賀市民はもとより、神奈川県民・首都圏3000万人のくらしと生命を脅かす原子力空母の横須賀母港撤回を改めて要求する。

以 上